

基礎資料

病気の診断・治療をするためにはX線検査は非常に重要です。1回に受ける放射線の量はごくわずかで心配いりません。ほんのわずかなX線被ばくを恐れるあまり、重大な病気の発見が遅れてしまう事の方がはるかに不利益なことです。
ご質問がありましたら、放射線科スタッフへお気軽にご相談ください。



私たちは普段の生活でも被ばくをしている！！

医療で受ける放射線のほかに、
宇宙や大地・食物や大気など様々な形で、1年間に**平均 2.4mSv**（ミリシーベルト）の放射線を受けています。（自然放射線といわれるものです。）

- | |
|---------------------|
| 1.大地から：年間約 0.46mSv |
| 2.宇宙から：年間約 0.38mSv |
| 3.食物から：年間約 0.23mSv |
| 4.大気中から：年間約 1.30mSv |

- 例) 宇宙線被ばく量は高空を飛行する航空機の利用によりさらに増加します。
特に海外旅行では、高度も高く、時間も長いので被ばく量が増加します。
例) テレビやパソコンのブラウン管からは、電子線という放射線が出ています。

《医真会における撮影1枚あたりの被ばく線量》

検査部位	被ばく線量				
施設名	八尾総合病院	総合クリニック	安中診療所	八尾川比リテーション病院	ガイドライン
胸部撮影	0.15mGy	0.12mGy	0.20mGy	0.16mGy	0.3mGy
腹部撮影	2.31mGy	2.70mGy	1.50mGy	2.38mGy	3.0mGy
頭部撮影	1.66mGy	1.27mGy	2.16mGy	2.02mGy	3.0mGy
頸椎撮影	0.62mGy	0.27mGy	0.49mGy	0.88mGy	0.9mGy
腰椎撮影	2.91mGy	2.93mGy	3.84mGy	4.86mGy	5.0mGy
小児胸部撮影	0.06mGy	0.07mGy	0.07mGy	0.07mGy	0.2mGy
小児腹部撮影	0.28mGy	0.21mGy	0.32mGy	0.27mGy	0.5mGy

当院では日本放射線技師会にて、定められた医療被ばくガイドライン（低減目標値）より低線量で撮影を行っています。

《補足》

放射線単位について

Sv（シーベルト）：線量当量

放射線は同じ線量でも種類によって人体に与える影響が異なるため、人体が放射線を受けたときその影響の度合いを表す単位としてSv（シーベルト）が用いられています。1000mSv=1Sv

Gy（グレイ）：吸収線量

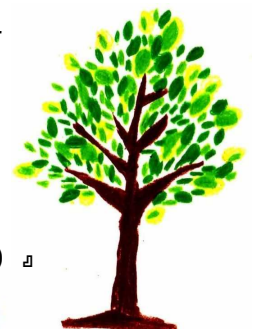
放射線を当てられたものが放射線のエネルギーをどのくらい吸収したのかを表す単位としてGy（グレイ）が用いられています。1000mGy=1Gy

線に関しては**1Sv 1Gy**と考えて頂いてかまいません。

資料に関して、何かご意見・ご質問等があれば、下記のメールアドレスに
お気軽にお寄せください。【xp@ishinkai.or.jp】

参考文献

JART 日本放射線技師会 2005/vol.52/No.529
フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



医真会八尾総合病院放射線科